

地域住民が支え後生に受け継がれる「一日市盆踊」（八郎潟町）

四百有余年の悠久の時代を超えて受け継がれてきた八郎潟町「一日市盆踊」。今春、この地域の風俗を知るうえで貴重な文化財として、県無形民俗文化財の指定を受けました。盆踊りの保存伝承活動を地域住民全体で支え、次世代に繋げていく取り組みがなされています。



四百有余年受け継がれてきた県三大盆踊の一つ

八郎潟町の「一日市盆踊」は、本県鹿角市の毛馬内盆踊、羽後町の西馬内盆踊とならぶ県内三大盆踊りの一つとして知られ、湯端の気性の激しさを反映した「デンデンツク踊り」、「キタサカ踊り」優雅な「三勝踊り」が伝承されています。

一日市盆踊の起源ははっきりしませんが、一説には永保2（1082）年に男鹿の喜

道法師が宗教宣伝のため馬場目（隣町五城目町）の水沢に地蔵踊りを伝えたのが始まりで、それがやがて馬場目川流域さらには、かつて日本第2位の面積を誇った八郎潟周辺地域にへと伝わっていったとされています。

実際には「浦城（八郎潟町）があったとみられる永亨（永禄年間）（1429）～1569年）に踊られ始めた」とする説が有力視されており、四百有余年の歴史がある踊りであります。

今春、県無形民俗文化財の指定を受ける

今春の3月20日、「一日市盆踊」は、「八郎潟を囲む男鹿南秋地域の盆踊りが、古い形を次第に失いつつある中で、一日市盆踊は、踊り場の方固め、掛け歌、仮装、三勝などを伝え、この地域の風俗を知るうえで貴重な文化財である



数十張りの太鼓の音が夏の夜に響きます

る」と評価され、県の無形民俗文化財に指定されました。

「一日市盆踊」について

一日市盆踊は、八郎潟を中心とした男鹿南秋田地域で広く踊られている盆踊りのひとつで、これらが近世に八郎潟周辺の集落ごとで踊られていたことは、文化6(1809)年の菅江真澄、夷令豆女装碑(ひなのあそび)の内容から窺い知ることが出来ます。

一日市の集落は中世には成

立していたと推定され、羽州街道上の宿駅として整備されました。さらに津軽藩の本陣が置かれるなど、集落が繁栄するとともに一日市盆踊も盛大になったと考えられます。

現在の一日市盆踊は、8月18日から20日の3日間に、一日市上町大通りで踊られます。踊り場には、頭上に大型長方形の灯籠を、周囲には六角形の小型灯籠を据え、中心には櫓(やぐら)を組みます。太鼓を据え付ける櫓は、神仏の依り代(よりしろ)となり、周囲の灯籠は踊り場の方固め(ほつがため)をあらわします。夕暮れになると、囃子方は寄せ太鼓を打ち鳴らす。踊り手は、内側を向いて大きな輪になりデンデンツク、キタサカ、三勝(さんかつ)の3種を太鼓と笛の拍子にあわせ、仕舞太鼓が打ち鳴らされるまで繰り返し踊ります。

デンデンツクは早い拍子にあわせて進み、両手を左右に払う所作がほとんどである。キタサカも同様に早い拍子で進むが、体をひねったり、両手を叩くなどの所作が加わります。三勝は、デンデンツクやキタサカに比べ動作がゆっくりで、片方の足をあげて静



子供たちも衣装して踊りを盛り上げます

止する所作が優雅です。

「夷令豆女装碑」によると、かつての踊りや振りは多種多様であったとされるが、その中で現在に伝わったのは三勝のみであります。当時、歌詞がなかった三勝に、現在は歌詞がありますが、ついた時期は定かではありません。一日市盆踊の特徴に掛け歌と衣装があげられます。

踊り手は、両側から踊りながら声や歌を掛けあい、集落内の男女間や近隣から参加した踊り手と、拍子にあわせて交歓を深めていくのであります。

一日市集落内では、衣装を「化ける」と言い、亡くなっ

た人を慰めるため、その人に似せた姿で踊ったとされます。一日市盆踊は、供養、念仏の要素を残す一方で、豊作祈念、慰安を主とした娯楽性の強い盆踊りです。また、デンデンツクとキタサカは拍子が早く軽快で、手と足の振りとはさきを主とします。このような盆踊りは、県内にも他の地域には類例がなく独特であります。

現在は、決まった衣裳はなく3日間の期間中、初日と最終日が仮装、2日目は仮装審査の対象外となっており、ほとんどが浴衣姿での踊りとなっております。

(以上 八郎潟広報 平成18年4月号「一日市盆踊の指定内容」より掲載)

町民が保存伝承活動を支え、次世代に繋げます

一日市盆踊の伝承活動については、町の民俗芸能の保存・伝承団体で、一日市在住の地域住民で組織する「一日市郷土芸術研究会」が主に担当しています。

研究会が独自で受講者を募り講習会を開催したり、町内

の保育園、幼稚園、小・中学校が踊りの講習会を企画し、研究会に指導を依頼したり、また、小中学校の総合学習の時間を活用しての伝承も図られています。

さらには平成15年に町教育委員会が制作した「DVDで学ぶおぼえる一日市盆踊」での伝承も行われており、地域住民全体で次世代に繋げていくという取り組みがなされています。

来る8月18、20日には、エネルギーシュでかつ、優雅さを秘めた「一日市盆踊」是非体験したいところです。



子供たちも囃子方で大活躍

盆踊りの華 綺麗どころたちが夏の夜を彩ります